



福祉・医療・保健

子ども医療費の助成及び 無料化について

小林 史政 議員

Q 子ども医療費の助成において、園田市長は議員時代に「現物給付」を推進していたが、マニフェストに掲げている中学生までの医療費無料化が実現するまでに「現物給付」とする予定はないのか。また、中学生までの医療費無料化に必要と試算された費用については、県からの2分の1の補助を差し引いた額を提示しているのか尋ねる。

A 小学生までの医療費助成については、現物給付が望ましいというスタンスであるが、メリット、デメリットを市民にお知らせした上で、償還払いと現物給付のどちらがよいのか、市民の声を聞いて聞きることが重要だと思っており、4月から議論を始めていきたい。また、中学生までの医療費無料化に必要な費用の試算については、県からの補助を差し引いていない。

保育士不足に対策を

伊川 京子 議員

Q 市長の所信表明における「子育て支援」において、教育・保育施設の整備については、幼稚園や保育所の再編整備計画により進められているが、今後どうなるのか。また、施設の整備が図られ、定員が増すにつれ、保育士不足が問題となる。保育士の労働環境や精神的負担などを調査し、対策を考へるべきではないか。

A 子育て支援における教育・保育施設の整備については、位置、規模等の市民のニーズを踏まえた上で、ゼロベースで見直す必要があると考えている。また、保育士の確保については、保育会と連携して情報交換等を行っており、国、県の制度と一体となって取り組みたい。

バス料金助成制度に 「不公平」の声も

神近 寛 議員

Q 70歳以上を対象とした「バス料金助成制度」に対し、「バス

停まで遠くタクシーに頼らざるを得ない」、「バスの便が少なく、自家用車が手放せない」等の声が寄せられている。「バス限定」のこの制度は、早急に見直し、タクシーや自家用車、健康増進のための諸活動も対象とし、高齢者が自由に選択でき、喜ばれる制度に改善することを望む。

A 高齢者ふれあいバス社会実験事業については、2年間の実証実験を予定していたが、1年目の助成券の配付が終了した時点で、一旦、中止または廃止する方向で検討している。その後、実証結果を踏まえ、平成28年度中に高齢者や障害者の生活支援としてのバス路線の役割を含め、市民にとって有効な市内交通体系の再構築を図りたい。

中学生までの 医療費無料化は時期尚早だ

山口 弘宣 議員

Q 中学生までの医療費無料化、つまりタダにすることは、全体の医療費の増大に拍車をかけ、国保税などの値上げに直結すると考へる。さらに、小児科のコンビ

ニ受診や小児科医の過重労働につながるなど、小児科の医師不足の問題が再燃しかねない。無料化、タダにすることは当面、保留あるいは撤回すべきだと考へるがどうか。

A マニフェストに掲げた中学生までの医療費無料化については、前市長が掲げた政策の継続と更なる飛躍、そして地方創生など、総合的な視点から政策判断したもので、4年間の任期中の早い時期に実現したいと思っており、保留や撤回することは一切ない。また、医療費や小児科のいわゆるコンビニ受診などの指摘については、しっかりと重く受け止め、関係機関の協力を得ながら、市民の皆さんに説明しながら一歩一歩進めていきたい。

育休問題と イクボスについて

朝長 英美 議員

Q 市内の民間企業における、妊娠を機にした退職や、育休の取得状況はどうなっているのか。また、市役所を含め、市内民間企業にイクボス制度はあるのか。ま

